

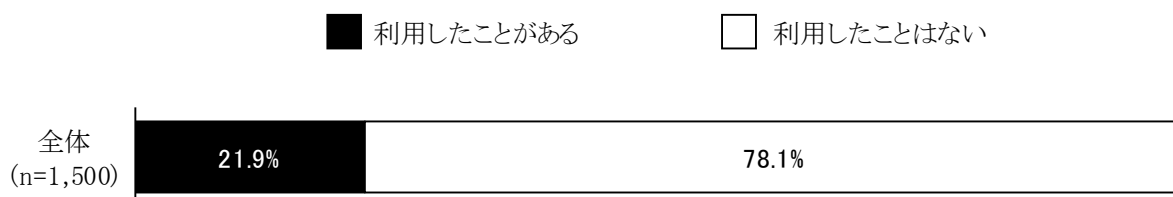
1.2 ふるさと納税について

(1) 平成 30(2018)年 1 月～12 月の間のふるさと納税の利用経験

問. あなたは平成30年1月～平成30年12月の間にふるさと納税を利用したことはありますか。

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を「利用したことがある」は、全体(n=1,500)の21.9%であった。

【図表 15】 平成30(2018)年1月～12月の間のふるさと納税の利用経験



性／年齢別で見た場合、男性は30～60歳代で、女性は30～50歳代で2割を超えており、特に、男性の40～49歳と女性の30～39歳で、ともに30.6%で最も高かった。

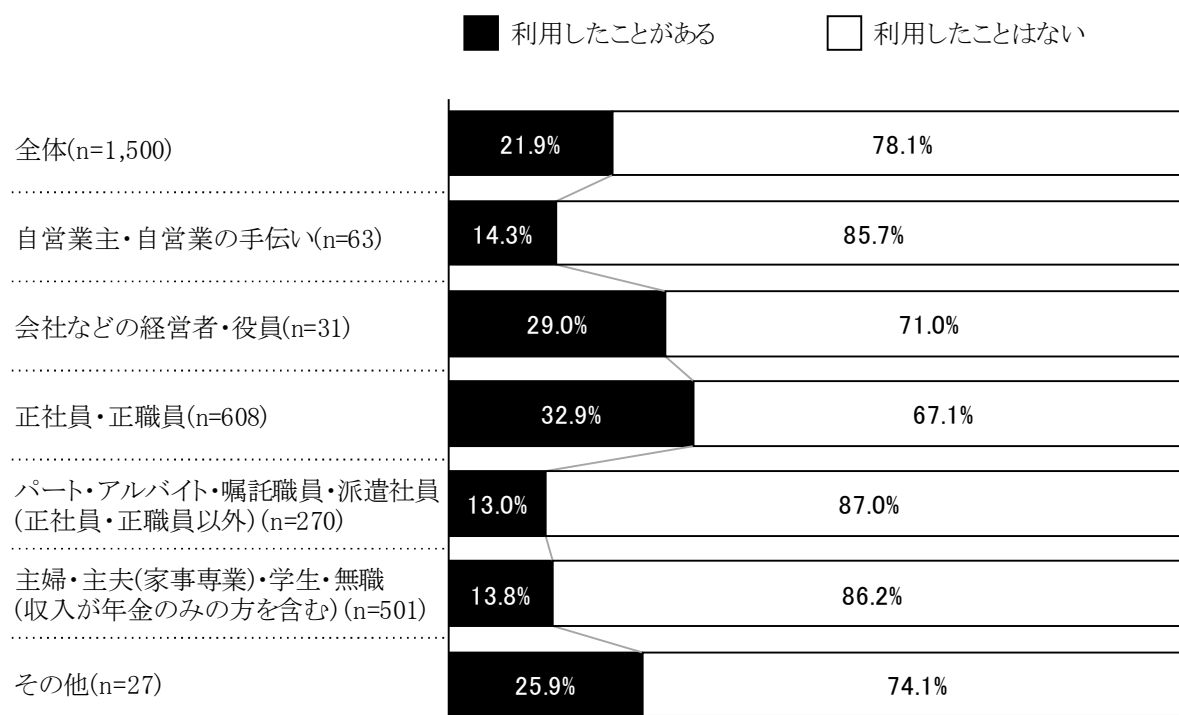
居住区別では、麻生区が29.8%で最も高かった。

【図表 16】 平成30(2018)年1月～12月の間のふるさと納税の利用経験(性／年齢別、居住区別)



なお、職業別にふるさと納税の利用状況を見てみると、正社員・正職員では「利用したことがある」が32.9%であった。

【図表 17】 平成 30(2018)年 1 月～12 月の間のふるさと納税利用状況(職業別)



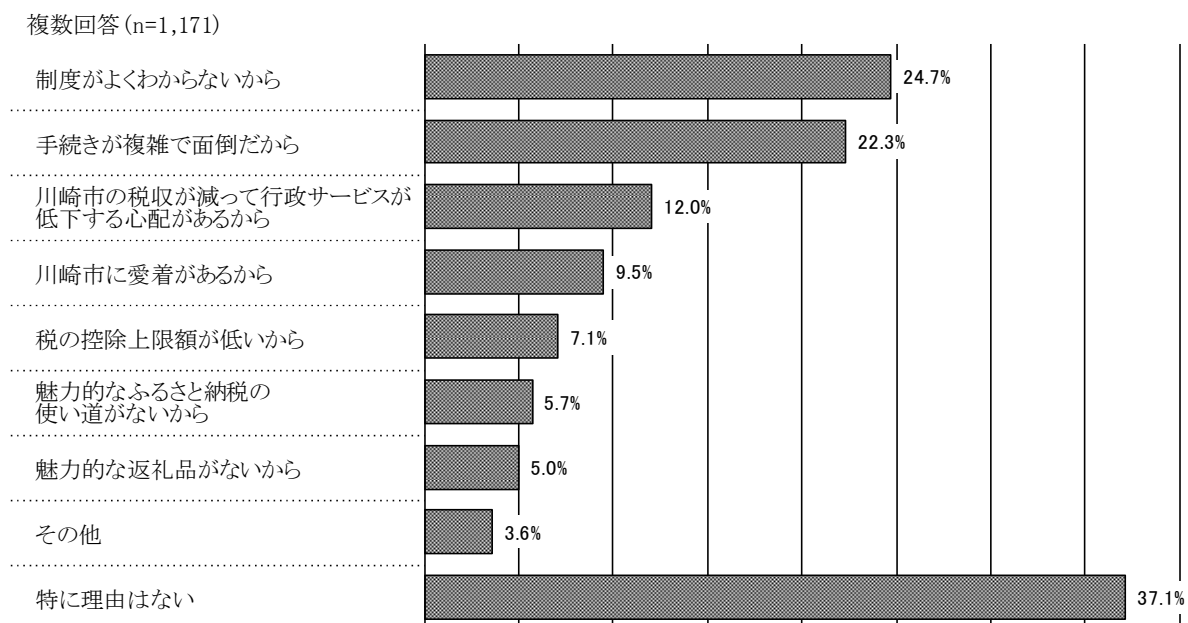
(2) ふるさと納税を利用しなかった理由

問. ふるさと納税を利用したことがない理由を教えてください。(複数回答)

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用しなかった人(n=1,171)にその理由を回答してもらったところ、「特に理由はない」が37.1%で最も高かった。

具体的な理由の中では「制度がよくわからないから」が24.7%で最も高く、次いで「手続きが複雑で面倒だから」(22.3%)であった。

【図表 18】 ふるさと納税を利用しなかった理由



性／年齢別で見た場合、「制度がよくわからないから」と「手続きが複雑で面倒だから」は、男性では40歳代以下、女性では50歳代以下で高い傾向であった。

また、男女ともに、年代が高くなるにつれて「川崎市の税収が減って行政サービスが低下する心配があるから」が高くなる傾向であった。

【図表 19】 ふるさと納税を利用しなかった理由(性／年齢別)

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
ベース: 平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用しなかった人	(1,171)	(585)	(92)	(127)	(125)	(101)	(78)	(62)
制度がよくわからないから	24.7%	20.3%	20.7%	26.8%	25.6%	17.8%	12.8%	9.7%
手続きが複雑で面倒だから	22.3%	20.2%	16.3%	26.0%	24.0%	17.8%	15.4%	16.1%
川崎市の税収が減って行政サービスが低下する心配があるから	12.0%	14.4%	6.5%	9.4%	9.6%	17.8%	26.9%	24.2%
川崎市に愛着があるから	9.5%	11.8%	7.6%	11.8%	9.6%	14.9%	11.5%	17.7%
税の控除上限額が低いから	7.1%	8.0%	8.7%	7.1%	7.2%	6.9%	6.4%	14.5%
魅力的なふるさと納税の使い道がないから	5.7%	6.0%	4.3%	4.7%	8.8%	7.9%	2.6%	6.5%
魅力的な返礼品がないから	5.0%	5.5%	4.3%	9.4%	5.6%	2.0%	6.4%	3.2%
その他	3.6%	3.1%	3.3%	2.4%	0.8%	3.0%	6.4%	4.8%
特に理由はない	37.1%	39.1%	51.1%	33.1%	43.2%	37.6%	33.3%	35.5%

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
ベース: 平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用しなかった人	(1,171)	(579)	(113)	(93)	(127)	(111)	(93)	(42)
制度がよくわからないから	24.7%	29.2%	43.4%	35.5%	29.9%	21.6%	21.5%	11.9%
手続きが複雑で面倒だから	22.3%	24.4%	16.8%	29.0%	32.3%	27.9%	17.2%	16.7%
川崎市の税収が減って行政サービスが低下する心配があるから	12.0%	9.5%	0.0%	5.4%	10.2%	9.9%	19.4%	19.0%
川崎市に愛着があるから	9.5%	7.3%	3.5%	11.8%	3.9%	7.2%	11.8%	7.1%
税の控除上限額が低いから	7.1%	6.0%	3.5%	4.3%	4.7%	7.2%	9.7%	9.5%
魅力的なふるさと納税の使い道がないから	5.7%	5.5%	6.2%	9.7%	2.4%	5.4%	5.4%	4.8%
魅力的な返礼品がないから	5.0%	4.5%	5.3%	5.4%	4.7%	2.7%	4.3%	4.8%
その他	3.6%	4.1%	2.7%	4.3%	3.1%	4.5%	5.4%	7.1%
特に理由はない	37.1%	34.7%	38.9%	25.8%	29.9%	36.9%	37.6%	45.2%

(3) ふるさと納税の利用状況(回数と総金額)

問. 平成30年1月～平成30年12月の間にふるさと納税を行った回数と総金額を教えてください。

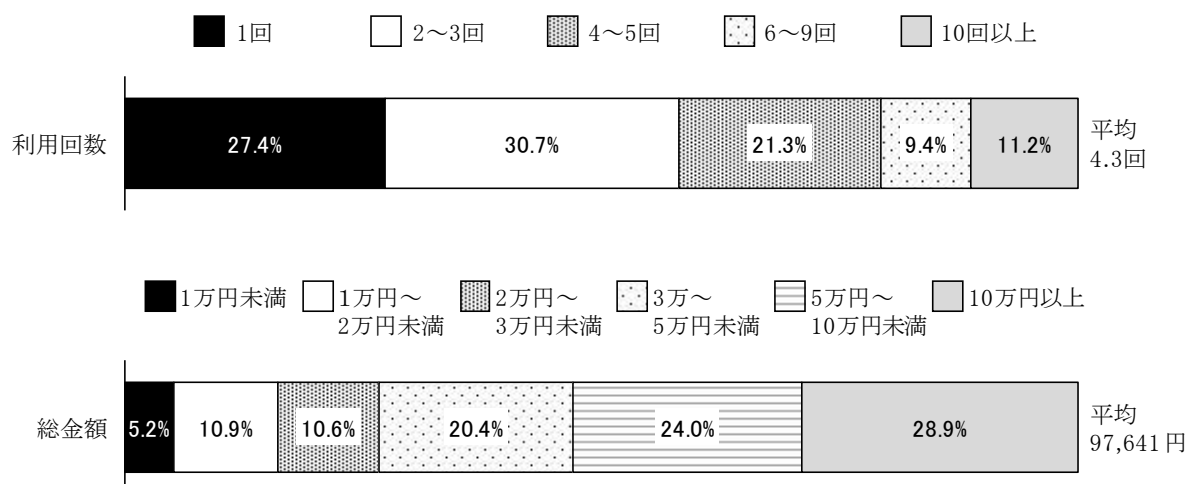
平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人(n=329)に対して、利用回数と総金額を回答してもらった。

利用回数では「1回」と「2～3回」を合わせた〈3回以下〉が6割近くであったが、「10回以上」も1割を超えており、平均では4.3回であった。

総金額では、「5万円～10万円未満」が24.0%、「10万円以上」が28.9%で、これらを合わせた〈5万円以上〉が5割を超えており、平均では97,641円であった。

【図表 20】 ふるさと納税の利用状況(回数と総金額)

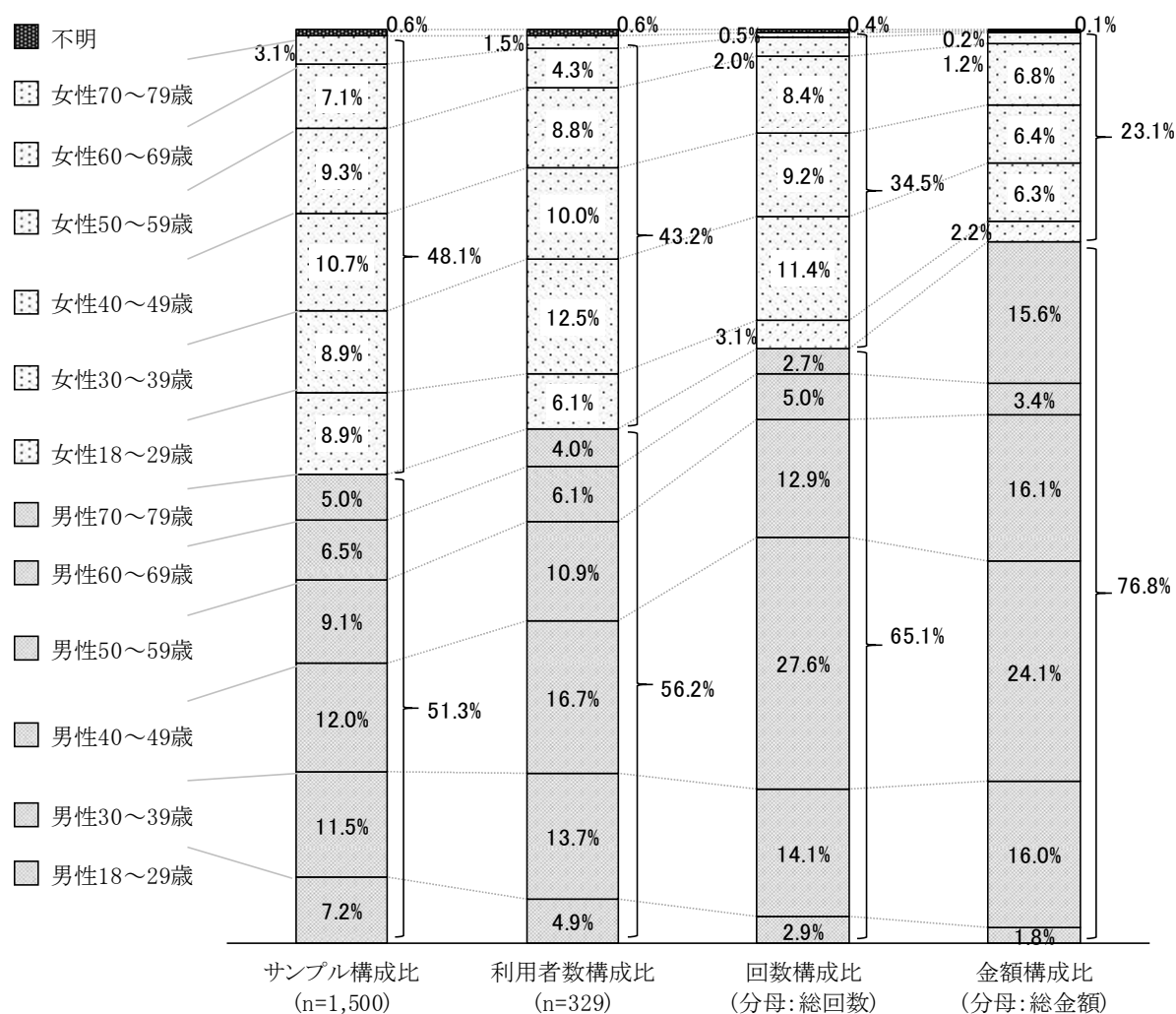
平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人 (n=329)



調査対象者の性／年齢別の構成比(サンプル構成比)と、ふるさと納税利用者の性／年齢別構成比(利用者数構成比)、そしてふるさと納税の利用回数および利用金額に占める性／年齢別の構成比(回数構成比および金額構成比)を比較してみた。

ふるさと納税の回数、金額ともに、男性の40～49歳の構成比が全体の1/4程度を占め、最も高かった。

【図表 21】 ふるさと納税の利用者数・回数・金額の構成比



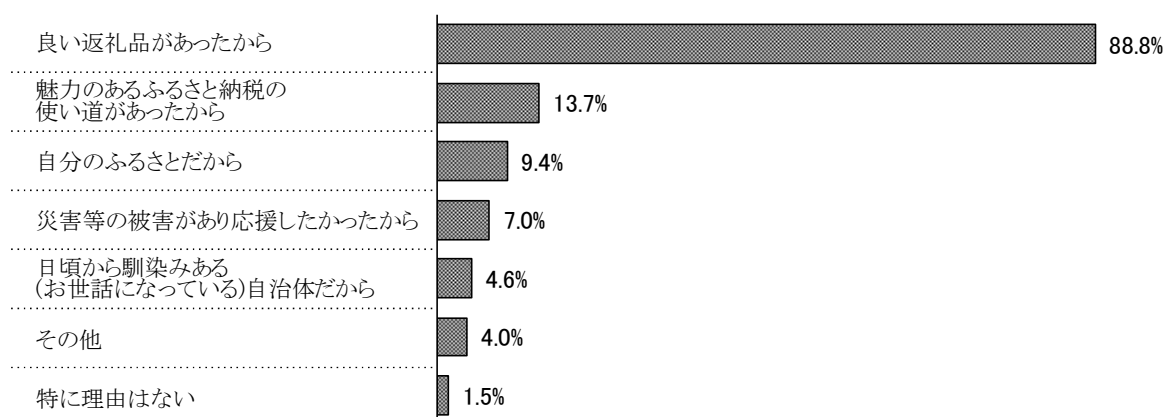
(4) ふるさと納税を行った理由

問. 平成30年1月～平成30年12月の間にふるさと納税を行った理由を教えてください。
(複数回答)

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人(n=329)にその理由を回答してもらったところ、9割近くが「良い返礼品があったから」と回答した。2番目の「魅力のあるふるさと納税の使い道があったから」(13.7%)とは大きな差があった。以後「自分のふるさとだから」(9.4%)と「災害等の被害があり応援したかったから」(7.0%)と続いたが、それらの理由を回答した人の割合は1割に満たなかった。

【図表 22】 ふるさと納税を行った理由

複数回答 (n=329)



(5) ふるさと納税を行った理由別金額内訳

問. 平成30年1月～平成30年12月の間にふるさと納税を行った総金額について、
前問で選んだ理由別に、内訳を教えてください。
※ 1回のふるさと納税で、複数の理由がある場合は、その理由ごとに金額を配分してください。

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人(n=329)に、ふるさと納税を行った総金額について理由別の内訳を回答してもらったところ、内訳額の1人当たりの平均額が最も高い理由は、「良い返礼品があったから」であった。

【図表 23】 ふるさと納税を行った理由別金額内訳

複数回答(n=329)

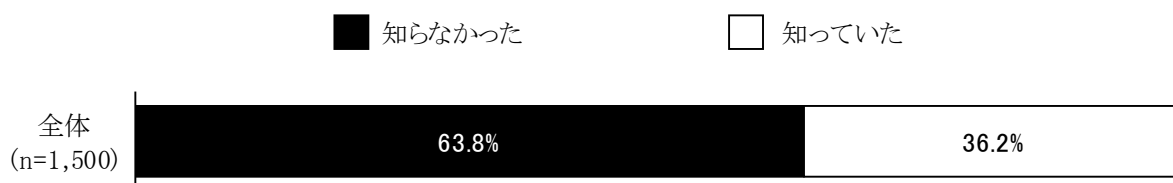
	回答者数 (人)	回答者比率 (%)	一人当たりの 平均額
良い返礼品があったから	292	88.8	96,086円
自分のふるさとだから	31	9.4	38,210円
魅力のあるふるさと納税の使い道があったから	45	13.7	28,744円
日頃から馴染みある(お世話になっている)自治体だから	15	4.6	28,667円
災害等の被害があり応援したかったから	23	7.0	26,080円
その他	13	4.0	38,385円
特に理由はない	5	1.5	12,000円

(6) ふるさと納税制度により市税が何十億円も減収していることの認知

問. 川崎市はふるさと納税により、平成30年度は44億円の市税が減収し、令和元年度は56億円の市税が減収する見込みで、年々市税減収額が増大しています。川崎市がふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していることをご存じでしたか。

「川崎市がふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」を知っているかどうか回答してもらったところ、全体(n=1,500)の63.8%が「知らなかった」と回答した。

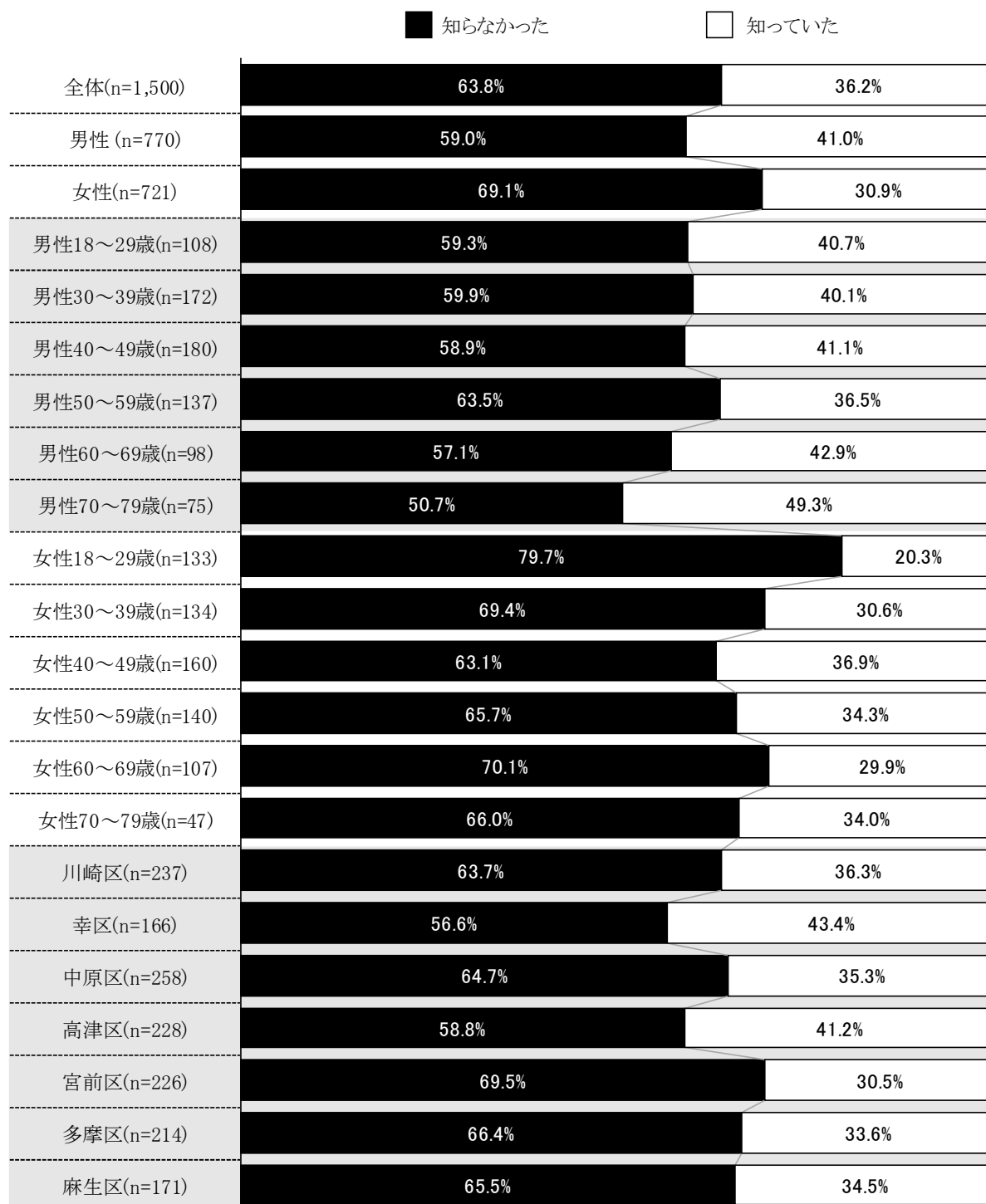
【図表 24】 ふるさと納税制度により市税が何十億円も減収していることの認知



性／年齢別で見た場合、女性の方が「知らなかった」割合が高い傾向であった。特に女性の18～29歳では「知らなかった」が約8割であった。一方で、男性の70歳以上では「知らなかった」は約5割であった。

居住区別では、「知らなかった」は宮前区で約7割で最も高かった。一方で、「知っていた」は幸区(43.3%)と高津区(41.2%)で4割を超えた。

【図表 25】 ふるさと納税制度により市税が何十億円も減収していることの認知
(性／年齢別、居住区別)



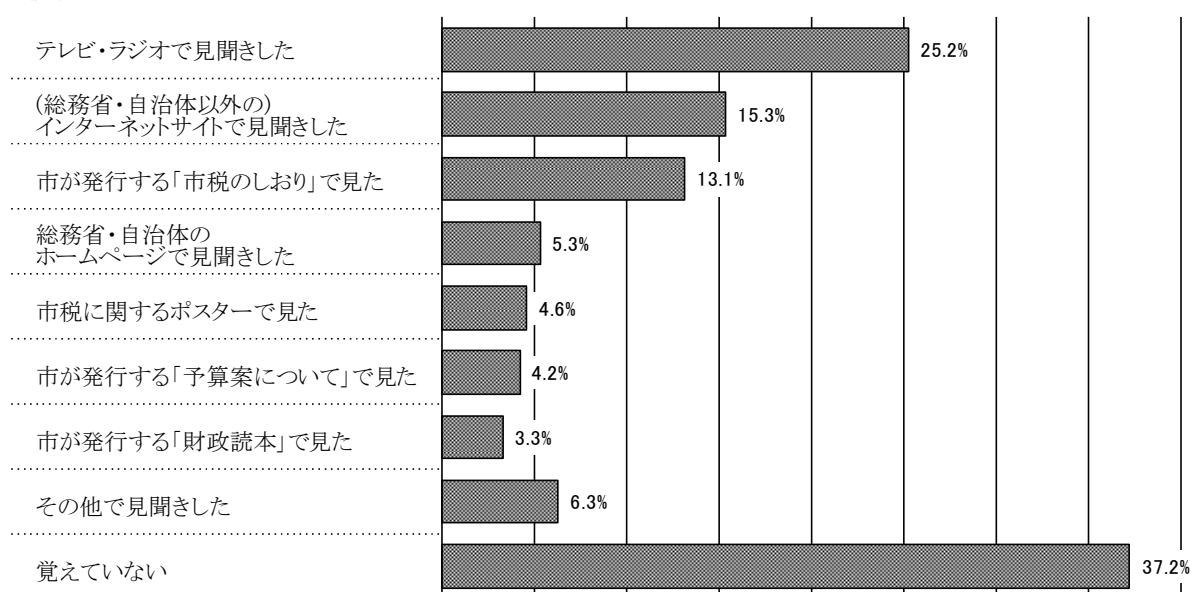
(7) ふるさと納税制度により、市税が減収していることを認知した情報源

問. ご存じの場合には、何で見聞きしたのかを教えてください。(複数回答)

「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」を知っている人(n=543)が、何からそのことを認知したのかについて聞いたところ、「覚えていない」(37.2%)が最も高かったが、具体的な情報源としては、「テレビ・ラジオで見聞きした」(25.2%)が最も高く、次いで「(総務省・自治体以外の)インターネットサイトで見聞きした」(15.3%)、「市が発行する『市税のしおり』を見た」(13.1%)の順であった。

【図表 26】 ふるさと納税制度により、市税が減収していることを認知した情報源

複数回答 (n= 543)



ふるさと納税の利用者数・回数・金額に占める構成比が最も高い男性の40～49歳では、具体的な情報源としては、「テレビ・ラジオで見聞きした」と「(総務省・自治体以外の)インターネットサイトで見聞きした」とともに23.0%で最も高く、次いで「市が発行する『市税のしおり』で見た」が18.9%であった。

【図表 27】 ふるさと納税制度により、市税が減収していることを認知した情報源(性／年齢別)

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
ベース:「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」を知っている人	(543)	(316)	(44)	(69)	(74)	(50)	(42)	(37)
テレビ・ラジオで見聞きした	25.2%	23.1%	15.9%	23.2%	23.0%	20.0%	31.0%	27.0%
(総務省・自治体以外の)インターネットサイトで見聞きした	15.3%	18.0%	15.9%	23.2%	23.0%	22.0%	9.5%	5.4%
市が発行する「市税のしおり」で見た	13.1%	15.2%	9.1%	7.2%	18.9%	18.0%	21.4%	18.9%
総務省・自治体のホームページで見聞きした	5.3%	7.9%	4.5%	8.7%	12.2%	2.0%	7.1%	10.8%
市税に関するポスターで見た	4.6%	6.3%	9.1%	10.1%	5.4%	4.0%	0.0%	8.1%
市が発行する「予算案について」で見た	4.2%	5.4%	6.8%	5.8%	2.7%	6.0%	4.8%	8.1%
市が発行する「財政読本」で見た	3.3%	4.7%	13.6%	1.4%	5.4%	0.0%	2.4%	8.1%
その他で見聞きした	6.3%	6.0%	4.5%	5.8%	1.4%	4.0%	11.9%	13.5%
覚えていない	37.2%	32.0%	50.0%	30.4%	32.4%	28.0%	21.4%	29.7%

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
ベース:「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」を知っている人	(543)	(223)	(27)	(41)	(59)	(48)	(32)	(16)
テレビ・ラジオで見聞きした	25.2%	28.7%	14.8%	26.8%	20.3%	35.4%	37.5%	50.0%
(総務省・自治体以外の)インターネットサイトで見聞きした	15.3%	11.7%	7.4%	19.5%	10.2%	12.5%	6.3%	12.5%
市が発行する「市税のしおり」で見た	13.1%	10.3%	7.4%	0.0%	3.4%	10.4%	25.0%	37.5%
総務省・自治体のホームページで見聞きした	5.3%	1.8%	7.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%
市税に関するポスターで見た	4.6%	2.2%	0.0%	2.4%	1.7%	2.1%	3.1%	6.3%
市が発行する「予算案について」で見た	4.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	6.3%
市が発行する「財政読本」で見た	3.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	3.1%	0.0%
その他で見聞きした	6.3%	6.7%	3.7%	2.4%	10.2%	6.3%	9.4%	6.3%
覚えていない	37.2%	44.4%	66.7%	48.8%	55.9%	35.4%	31.3%	6.3%

(8) ふるさと納税の利用状況と、ふるさと納税制度による市税減収の認知状況による分析**① ふるさと納税利用状況×市税減収認知状況による分類**

平成30(2018)年1月～12月の間におけるふるさと納税の利用状況と、ふるさと納税制度による市税減収の認知状況から、対象者を以下の4つのグループに分類した。

- A 「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」を認知しており、かつ、平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した
- B 市税減収は認知しておらず、ふるさと納税を利用した
- C 市税減収を認知しており、ふるさと納税は利用しなかった
- D 市税減収は認知しておらず、ふるさと納税も利用しなかった

	市税減収認知	市税減収非認知
ふるさと納税利用	A	B
ふるさと納税非利用	C	D

全体では、「A 『ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること』を認知しており、かつ、平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した」が11.1%で、「B 市税減収は認知しておらず、ふるさと納税を利用した」が10.9%と同程度であった。

「A 市税減収を認知しており、かつ、ふるさと納税は利用した」は、男性の40～49歳で19.4%と最も高く、次いで男性の30～39歳が15.7%であった。これらの層では、「A 市税減収を認知しており、かつ、ふるさと納税は利用した」が「B 市税減収は認知しておらず、ふるさと納税を利用した」の1.5～2倍程度であった。

【図表 28】 ふるさと納税利用状況 × 市税減収認知状況4区分(性／年齢別、居住区別)



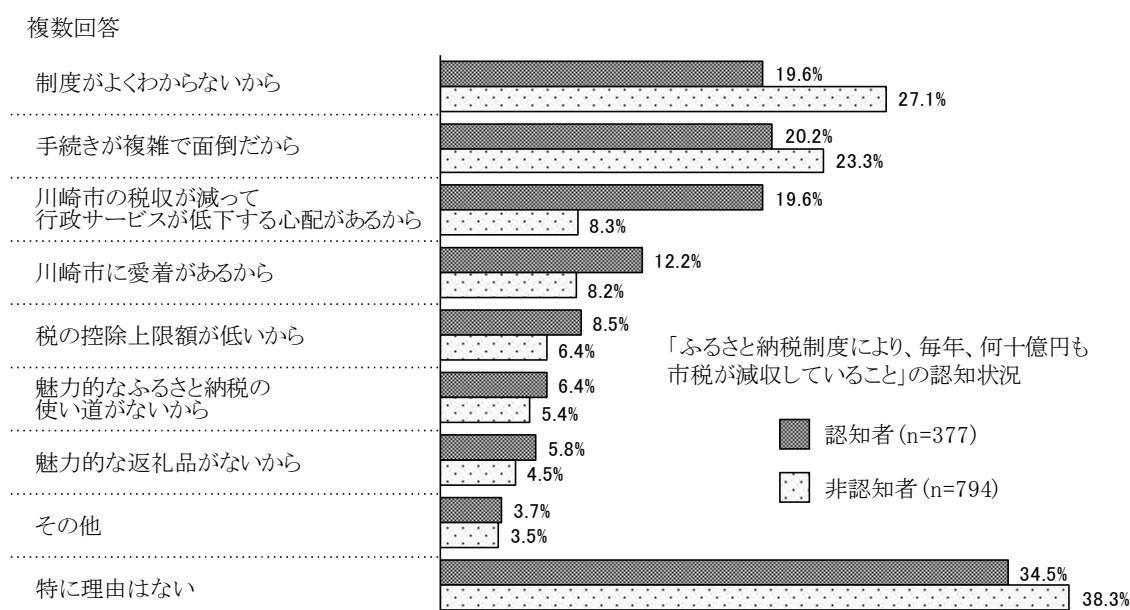
② 市税減収認知状況別ふるさと納税を利用しなかった理由

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用しなかった人について、「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」の認知状況別に、ふるさと納税を利用しなかった理由を見てみた。

ふるさと納税制度による市税減収の認知状況にかかわらず、「制度がよくわからないから」と「手続きが複雑で面倒だから」が2割～3割近くで主要な理由となっていた。

非認知者に比べ、認知者では「川崎市の税収が減って行政サービスが低下する心配があるから」と「川崎市に愛着があるから」が高くなっており、「川崎市の税収が減って行政サービスが低下する心配があるから」は約2割であった。

【図表 29】 市税減収認知状況別ふるさと納税を利用しなかった理由

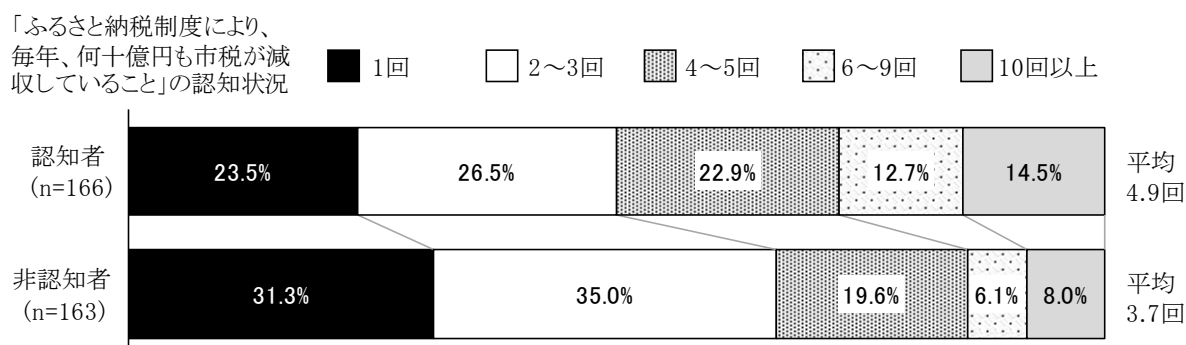


③ 市税減収認知状況別ふるさと納税利用状況(回数)

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人について、「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」の認知状況別に、利用回数を見てみた。

ふるさと納税制度による市税減収の非認知者に比べ、認知者の方が利用回数(平均)が多く、4回以上が5割であった。

【図表 30】 市税減収認知状況別ふるさと納税利用状況(回数)

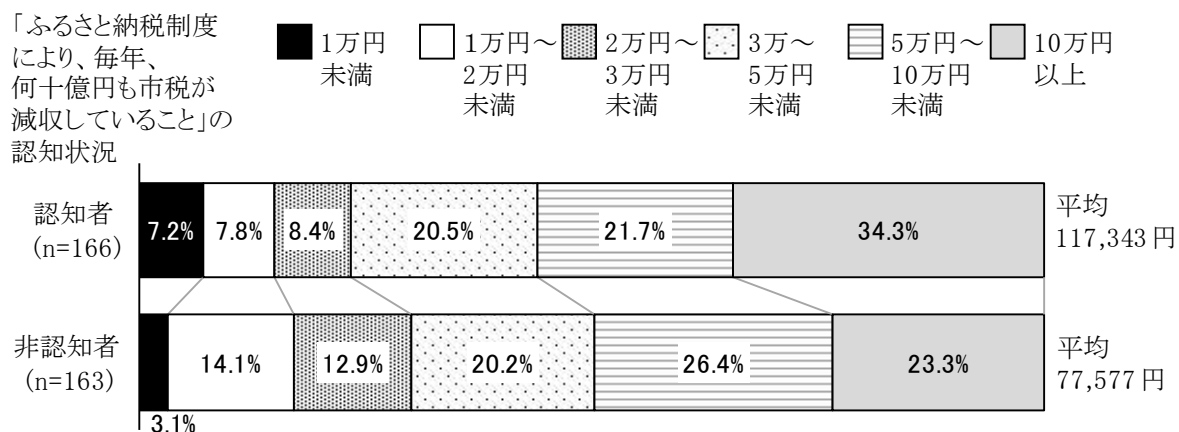


④ 市税減収認知状況別ふるさと納税利用状況(総金額)

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人について、「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」の認知状況別に、総金額を見てみた。

ふるさと納税制度による市税減収の非認知者に比べ、認知者の方が総金額(平均)が高かった。

【図表 31】 市税減収認知状況別ふるさと納税利用状況(総金額)



⑤ 市税減収認知状況別ふるさと納税を利用した理由

平成30(2018)年1月～12月の間にふるさと納税を利用した人について、「ふるさと納税制度により、毎年、何十億円も市税が減収していること」の認知状況別に、ふるさと納税を利用した理由をみてみた。

ふるさと納税制度による市税減収の認知状況にかかわらず、「良い返礼品があったから」が9割近くであった。

なお、ふるさと納税制度による市税減収の認知状況別での顕著な違いは見受けられなかった。

【図表 32】 市税減収認知状況別ふるさと納税を利用した理由

